少年の日の思い出 (4)

ヘルマン・ヘッセ
高橋 健二 訳

(「僕」は、エーミールの持つクジャクヤママユを盗んでしまいました。)

すぐに僕は、このちょうを持っていることはできない、持っていてはならない、元に返して、できるなら、①何事もなかったようにしておかなければならない、と悟った。そこで、人に出くわして見つかりはしないかということを極度に恐れながらも、急いで引き返し、階段を駆け上がり、一分の後には、またエーミールの部屋の中に立っていた。僕は、ポケットから手を出し、ちょうを机の上に置いた。それをよく見ないうちに、僕はもう、どんな②不幸が起こったかということを知った。そして、泣かんばかりだった。クジャクヤママユはつぶれてしまったのだ。(中略)

盗みをしたという気持ちより、自分がつぶしてしまった、美しい、珍しいちょうを見ているほうが、僕の心を苦しめた。③微妙なとび色がかった羽の粉が、自分の指にくっついているのを見た。また、ばらばらになった羽がそこに転がっているのを見た。それをすっかり元どおりにすることができたら、僕は、どんな持ち物でも楽しみでも、喜んで投げ出したろう。

悲しい気持ちで、僕は家に帰り、夕方まで、うちの小さい庭の中で腰掛けていたが、ついに、一切を母に打ち明ける勇気を起こした。母は驚き悲しんだが、すでに、この告白が、どんな罰をしのぶことより、僕にとってつらいことだったということを感じたらしかった。

確認テスト

本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線①「何事もなかったようにしておかなければならない」とあるが、何事もないようにするとはここではどういうことか。適当なものを選びなさい。

ア クジャクヤママユを元の場所に戻し、盗んだ事実がなかったかのようにすること。

イ クジャクヤママユを隠し、自分が手に入れたことを気づかれないようにすること。

ウ クジャクヤママユを盗んでしまったことを謝罪し、エーミールと元の関係に戻ること。

(2) ——線②「不幸」とは何か。次から選びなさい。

ア クジャクヤママユを盗んでしまったこと。

イ クジャクヤママユがつぶれてしまったこと。

ウ ちょうを盗んだのを人に知られてしまったこと。

(3) ——線③「微妙なとび色……見た」とあるが、このときの「僕」の様子として適当なものを選びなさい。

ア クジャクヤママユの微妙なとび色の美しさに、改めて見とれている。

イ クジャクヤママユをどうやって修復するか、考えをめぐらせている。

ウ クジャクヤママユをつぶしてしまった現実に、心を苦しめられている。